



退院支援看護師育成プログラム を実践して

地域医療連携室 主任看護師 小笠原 弘美

超高齢化社会が目前に迫ったわが国では、国の政策により病院等の施設での病後の療養のあり方が見直され、「在宅」での療養の比重が急速に高まっています。特に、当院のような急性期病院においては、在院日数の短縮化が進んでおり、患者さんが限られた期間に適切な医療を受け、退院後も安定した療養生活を送れるように、入院早期から「退院支援」に取り組む事が重要となりました。また、「退院支援」にあたっては患者さん本人と同様に、地域の関係機関・関係職種の方々と密な連携をとっていくことが必要になっています。

当院においても例外ではなく、平成27年度の救急車受け入れは年間約4600件、一日あたり13件に上り、平均入院日数は11.1日でした。あらかじめ入院日が決まった入院よりも緊急入院の患者さんのほうが、治療後の身体機能や認知機能が低下し、自宅や入院前の入所施設へスムーズに退院することが難しくなる事が多いのが実情です。そのような患者さんやご家族と、どうすれば入院前と同様の生活の場で「その人らしく、安心して暮らす」ことができるかを一緒に考えていくのが「退院支援」です。

そこで、当院では平成28年度看護部委員会の中で、効果的な「退院支援」ができる人材育成をめざし、「退院支援看護師育成プログラム」を策定し、実践しました。

「退院支援看護師育成プログラム」の内容

- ①地域包括ケアシステム・介護保険などといった、基礎的知識の習得
- ②関係機関・職種の役割理解を目的とした院内外講師との意見交換
- ③院内多職種カンファレンスへの育成メンバーの参画



この育成プログラム参加メンバーをはじめとする病棟看護師は、患者さんの入院前の生活状況や介護保険の利用状況など必要な情報を自ら収集したり、患者さんの在宅での生活を視野に入れた病棟でのリハビリを計画したり、担当ケアマネージャーや訪問看護師と連絡を取り、退院前カンファレンスを企画するなどを進めています。

この退院支援看護師の育成が、患者さんの入院生活や退院後の安心につながるるとともに、病院全体の医療・看護の質の向上や、地域との連携強化にもつながると考えています。

今後もこの退院支援看護師育成プログラムを継続することで、患者さんとそのご家族の「その人らしい生き方」の実現のお手伝いをしたいと思います。